

学校教育目標	<b>「みんなと のびる」</b> <b>～人と関わり合い 未来に伸びる 児童の育成～</b>	【ミッション】生涯にわたって主体的に学び、多様な他者と協働し高めあおうとする人間力を育成する(ビジョン)1 児童一人一人が、自己存在を実感し、共感的人間関係の中で「豊かな心」を育むことができる温かい学校 2 児童一人一人が、学ぶ楽しさを実感し、みんなと伸びる中で「確かな学力」、「たくまじい体」を育む学校 3 教職員一人一人が、児童に対する愛情と教育に対する使命感を持ち、専門性を発揮しながら対応できる組織的な学校 4 「開かれた教育課程」のもと、家庭や地域と連携し、伝統の継承と創造を実現する学校
--------	--	--

評価計画							自己評価						改善方策				
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	担当	評価基準				達成値		達成度 達成率/ 目標値	評価	結果と課題の分析	改善方策
								4	3	2	1	10月	2月				
豊かな心(徳)	1	多様な他者を尊重し、協働できる児童の育成	いじめ、不登校、問題行動のない学校・学年・学級づくり 東広島スタンダードの定着	学校・学年・学級経営の充実(情報の共有化と組織的な対応) 縦割り班活動の充実 無言掃除、無言移動、無言集合の徹底 ノーチャイムによる学校生活 キラカードの活用 心のサポーター、スクールカウンセラーの活用	項目「ほめられたり、認められたりすることがある」での、児童の肯定的評価	90%以上	生徒指導部	110%以上	95%以上	85%以上	85%未満	94	2月	104%	3	「ほめられたり、認められたりすることがある」について、肯定的評価が94%であった。否定的な評価をした児童が6%であった。自己肯定感や自己有用感の低い児童への対応を考える必要がある。	児童主体でキラカードの活用を行うことで、自己肯定感や自己有用感を高めていく。また、児童の実態把握をしっかりと行い、学校行事などには、児童の成長について互いに肯定的評価を行う機会を設ける。
					項目「学校は安心して生活できる」での、児童の肯定的評価	95%以上		110%以上	95%以上	85%以上	85%未満	88	93%	2	「学校は安心して生活できる」の肯定的評価は、88%であった。安心できない理由として、友達関係によるトラブルやコロナ禍による制約の多い生活に対して難しさを感じていると考えられる。	児童が不安に思っていることについて、把握するために面談を行い、児童の実態把握に努める。また、全教職員で児童を見ていくためにも情報の共有を図り、適切な声かけや支援を行っていく。	
確かな学力(知)	2	主体的に学ぶ児童の育成	基礎学力の向上	授業力の向上(国語科の授業研究を中心とした研究推進による指導方法の工夫と改善) 計画的なチャレンジタイムの実施	国語科、算数科の単元末テストで80点以上を80%以上、50点未満を2%以下の学級	80%以上	教務部  (研究部)	110%以上	95%以上	85%以上	85%未満	39	48%	1	通常学級13のうち、評価項目をクリアしたのは5である。国語科80%以上をクリアは9、50%未満をクリアは全13、算数科80%以上をクリアは5、50%未満をクリアは11、学校全体で考えた場合、国語80点以上は76%、算数80点以上は68%、国算とも50点未満は2%以下。	各学級担任が、児童の該当教科についての課題を把握し、必ず達成させる目標(必達目標)を設定し、学習スキル向上に向けた指導改善や友達との学び合い活動の工夫、ICTを活用した個別学習の推進、そして読書不足傾向の改善に向けた読書活動の充実を行い、課題の改善に努める。	
				項目「文章を読んで、自分の考えを持つことができる」での、児童の肯定的評価	90%以上	110%以上		95%以上	85%以上	85%未満	85	94%	2	「文章を読んで、自分の考えを持つことができる」の肯定的評価は、85%で、目標値を下回った。自分の考えを持つことが難しく感じている児童が13%いることから、授業における手立てを調べる必要がある。	考えをもたせるために発問の精選やヒントカードや考えを持たせるための授業の手立てを講じる。チャレンジタイムを活用し、考えを書かせることに慣れさせる。		
				個別最適な学びの実現	学習環境の整備(UD) 情報教育の推進(ICT)	項目「授業中は落ち着いて学習できる」での、児童の肯定的評価		90%以上	110%以上	95%以上	85%以上	85%未満	88	98%	3	「授業中は落ち着いて学習できる」の肯定的評価は、88%であった。12%の児童が「落ち着いて学習できない」と思っている要因を把握することが必要である。	全校で統一する学級の環境整備事項を、研修時に定期的に呼び掛け、意識を高める。ICT機器の活用については、情報担当者と連携し、スタディーノートやグループフォームなどを活用する機会を設定し、指導者が活用に慣れるように努める。
たくましい体(体)	3	健康でたくましい心と体の育成	望ましい生活習慣の確立	「生活リズムキャンペーン」の実施 「新しい生活様式」の徹底	運動やスポーツに親しむ児童の増加(ほとんど毎日、ときどき運動する)	合計85%以上	保健安全部	110%以上	95%以上	85%以上	85%未満	82	96%	3	運動やスポーツをほとんど毎日している38%、ときどきする44%であった。休み時間の外遊びや家に帰ってから運動習慣がない児童が4%見られることが課題である。	体育委員会による外遊びを促す呼びかけや遊びの紹介などを通して、外遊びを奨励していく。毎日カードの取組を継続し、毎日運動をする習慣をつけさせる。	
				体力、運動能力の向上	体育科授業、体育的行事の充実 計画的な「郷GOタイム」の実施	新体力テストにおける体力、運動能力の向上【上体起こし、立ち幅跳び】(1~6年男女別、計24項目のうち、全国平均値を超えるもの)		55%以上(13項目以上)	110%以上	95%以上	85%以上	85%未満	67(16項目)	122%	4	本年度の重点項目「上体起こし」は92%、立ち幅跳びは42%であった。体育科授業前のサーキットや毎日カードへの体力づくりの導入により、平均以上の項目が増えたと考えられる。「立ち幅跳び」が45%で、後期の重点課題にする必要がある。	毎日カードの取組と連動し、家庭でできる跳躍に関する運動例を紹介し、記録の向上につなげる。
地域とともにある学校づくり	4	保護者や地域に開かれた信頼される学校づくり	保護者、地域と連携した「共育」の推進	学校運営協議会制度の導入と推進 学校行事の充実 地域団体との定期的な交流	項目「学校は、保護者や地域と連携を密にし、共に教育活動を推進している」での、肯定的評価	90%以上	総務部	110%以上	95%以上	85%以上	85%未満	90	100%	3	「家庭や地域との連携」については、90%の保護者から肯定的評価があった。一部には、連携状況に否定的な回答の保護者もみられる。事業が発生したとき、迅速な連携ができていなかったり、内容が不十分だったりすることが考えられる。	これまで同様に生徒指導対応についての研修を継続して実施するとともに、接遇研修などを含む、ソーシャルスキルトレーニングなども検討していく。	
				学校教育活動に関する情報発信	項目「学校教育活動の内容や児童の様子がわかる」での、肯定的評価	90%以上		110%以上	95%以上	85%以上	85%未満	92	102%	3	通信やHP等による情報発信については、92%の保護者から肯定的評価があった。学習状況や学校生活の様子、学校全体にかかわる教育活動の進捗状況について、関心の高くない保護者の存在も感じられる。	引き続き「学校だより」や「学年だより」の内容の充実を図るとともに、今後は、GoogleclassroomやCRM等の有効活用も検討していきたい。教育活動に対する保護者の興味、関心を高めたい。	
				「働き方改革(業務改善)」の推進	項目「やりがいをもって勤務できる環境づくりの推進」での、肯定的評価	85%以上		110%以上	95%以上	85%以上	85%未満	97	114%	4	授業参観や定期的な面談等で把握した課題等について、分掌組織の見直しや校務部会等の計画的な実施、スクールサポート制度を活用した教職員の支援を実施してきて成果が表れている。	学校運営協議会やPTA総務委員会等の連携により、関係行事の見直しや精選を図るとともに、本校独自の学校ボランティア(学校支援者)の仕組みを構築する。	
				勤務時間外在校時間月平均70時間未満	85%以上	110%以上	95%以上	85%以上	85%未満	96	113%	4					

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」で表示する。

■自己評価 4...目標を上回って達成 2...目標をやや下回って達成	3...ほぼ目標どおりに達成 1...目標をかなり下回って達成
---	------------------------------------

